



令和3年度分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和3年度分について、輸出額は「航空機類」などが減少したものの、「自動車」、「自動車の部分品」、「鉄鋼」などが増加したことから、対前年同月比21.8%の増加となった。また、輸入額は「航空機類」などが減少したものの、「アルミニウム及び同合金」、「液化天然ガス」、「石油製品」などが増加したことから、同29.4%の増加となった。

その結果、差引額は7兆1,083億円（同16.4%の増加）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年度比による
また、★印は全ての年度を通じて過去最高を示す（1979年度以降のデータを基礎として比較）

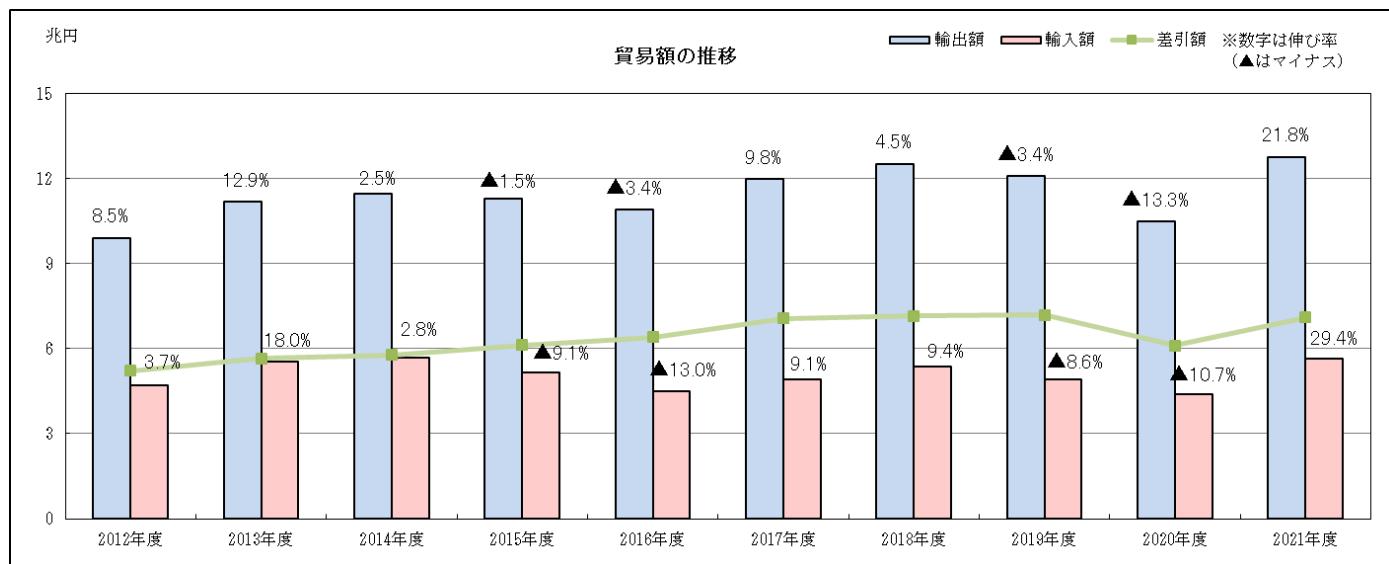
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	★ 12兆7,728億円	+21.8%	5兆6,646億円	+29.4%	7兆1,083億円	+16.4%
	3年ぶりの増加		3年ぶりの増加		2年ぶりの増加	
管内（名港シェア）	19兆7,956億円 (64.5%)		10兆5,692億円 (53.6%)		9兆2,264億円 (—)	
全国（名港シェア）	85兆8,786億円 (14.9%)		91兆2,534億円 (6.2%)		▲5兆3,749億円 (—)	

注) 名古屋港における差引額は、平成10年度以降 24年連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

		概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出	(1)	自動車	2兆8,855億円	+15.2%	+3.6	2年ぶりの増加
	(2)	自動車の部分品	2兆1,239億円	+20.4%	+3.4	3年ぶりの増加
	(3)	鉄鋼	★ 3,406億円	+57.2%	+1.2	3年ぶりの増加
輸入	(1)	航空機類	656億円	▲40.7%	▲0.4	2年連続の減少
	(1)	アルミニウム及び同合金	3,360億円	+89.3%	+3.6	3年ぶりの増加
	(2)	液化天然ガス	4,368億円	+46.6%	+3.2	3年ぶりの増加
減少	(3)	石油製品	1,555億円	+100.5%	+1.8	3年ぶりの増加
	(1)	航空機類	176億円	▲43.1%	▲0.3	2年連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。